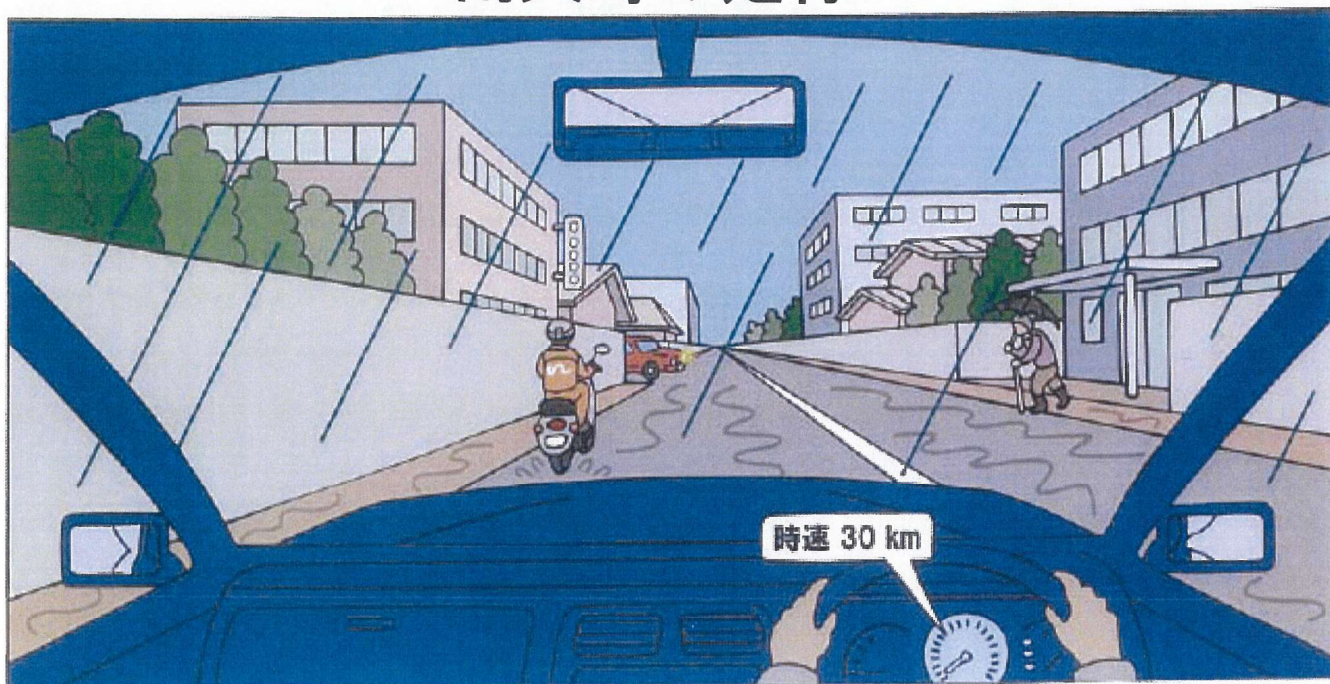


今回は危険予知トレーニングの最終回です。雨天時の走行について考えてみましょう。

事例③ 下記の状況から考えられる危険を列挙してみましょう。このページの後半部分に主な危険要因の例と、安全運転のポイントを掲載してございますが、まずは皆様でも一度考えてみて下さい。

雨天時の走行



【交通場面の状況等】

・制限速度：時速40キロ ・路面：湿潤 ・天候：雨 ・運転者：55歳 ・運転歴：5年

【主な危険要因】

- ①傘をさしているため視界が悪い歩行者が、車の接近に気づかずに道路を横断してくるとはねる危険がある。
- ②前方左側の二輪車が脇道からでようとしている車を避けるために、右側に進路変更してくると衝突する危険がある。
- ③脇道から左折して出ようとしている車が、二輪車の通過後に左折してくると衝突する危険がある。

など、これ以外にもいろいろと危険を想定なさったと思います。こういった危険を踏まえて下記にこの状況での安全運転のポイントをまとめてみました。

- ①傘をさした歩行者は視界が悪く、車の接近に気づかずに横断してくることがあるので、歩行者の動向に十分注意する。
- ②雨にさらされて走行する二輪車は、早く目的地に到着しようとして先を急ぎがちで、後方の確認をせずに進路変更することがあるので、進路変更が予測されるときは追越しや追い抜きをしない。

このように雨天時の運転は普段に増しての注意が必要だと考えます。
常に注意を怠ることなく安全運転に心掛け幸せな日々を過ごしましょう。